

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第75回総会演説抄録 ——

平成21年11月7・8日 於 富山県民共生センター サンフォルテ (富山市)

(第64回日本呼吸器学会
第49回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第34回日本サルコイドーシス学会)

集会長 戸 邊 一 之 (富山大学医学部第一内科)

—— 一 般 演 題 ——

1. 検診で発見された肺 *M. kansasii* 症の2例 °西堀武明 (長岡赤十字病感染症) 佐藤和弘・島岡雄一・鈴木信明・栗山英之・江部佑輔 (同呼吸器内)

症例は、40歳代男性と20歳代男性。ともに、自覚症状なく、左上肺野の空洞性陰影を検診で指摘された。結核との鑑別のため、胃液検査、気管支鏡検査を行い、両方の検体から培養で *M. kansasii* が検出され、*M. kansasii* 感染症と診断した。RFP, INH, EBによる内服治療を継続中である。

2. *Mycobacterium peregrinum* 感染を合併した肺結核の1例 °大場泰良 (NHO富山病呼吸器) 柄戸美智代 (同外)

症例は92歳男性。Gaffky 1号の結核と診断され当院入

院。入院時 mycoplasma陽性に加え、MGIT培地培養でTB-PCR (+)であるにもかかわらず、小川培地 colonyでのDDHで *M. peregrinum* と判明した。*M. peregrinum* は、迅速発育菌である *M. fortuitum* groupの1種で、遅速発育菌である *M. tuberculosis* に同時性重複感染をきたし、同菌を上回り colony 形成したと推測され、抗酸菌の同時性重複感染の場合、colonyが病態の原因菌を正確に反映しない可能性が考えられた。また当院において、TBとMACの異時性重複排菌3例、TBと *Legionella pneumophila* の同時性重複感染 (疑) 1例を経験しており、抗酸菌に限らず細胞内寄生病原体において複数種が臨床経過中に重複感染する病態が示唆された。